

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新潟大学教育学部附属長岡小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒940-8530 新潟県長岡市学校町1-1-1
E-mail fusyo@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp
Website <https://www.nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp/syo/index.htm>
幼児児童生徒数 男子 178名 女子 187名 合計 365名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+各活動内容を表す写真)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校では、困難にくじけず、多様な「生命」のつながりを発展させ、基盤となる「安全」な社会を実現しようとする、賢く、しなやかで、たくましい社会の担い手をはぐくむ。そのために、確かな知識・技能やそれを使いこなす思考力・判断力・表現力、人や社会、環境とよりよくかかわる力、自己を見つめ、自ら行動する力を身に付ける教育を行っている。具体的な活動の一例として、(1) 環境に係わる活動、(2) 防災に係わる活動、(3) 国際理解に係わる活動の概要を紹介する。

(1) 環境に係わる活動

①「花いっぱいプロジェクト」(3年生)

3年生は学校に花を増やしたり、みんなを笑顔にしたりするための取組を行った。附属長岡小学校が「命」や「笑顔」でいっぱいの学校になってもらいたいと願った子供たちは、たくさんの花を植えようと考えた。花の種類を調べ、玄関や中庭などへ花を植える「花いっぱいプロジェクト」を立ち上げた。学校の玄関が花でいっぱいになった。また、学校に花を植える活動を行っている国際ソロプチミスト長岡の皆さんを学校へお招きして自分たちの思いを伝えた。自分たちの取組により「附属長岡小の命を増やしたい」「もっと全校を笑顔にしたい」と意欲を高めた子供たちであった。

②「栖吉川の今・昔・未来」(4年生)

4年生は身近な栖吉川に入って生き物を見付けたり、観察したりして川に親しみ、川の生き物に愛着を深めてきた。見付けた生き物の数や種類を集計していく中で、「昔はもっと種類や数も多かったんじゃないか」と考え始めた。家の人や近所の人に話を聞き、以前よりも少なくなっていることを知った。その理由を探る中で過去に行われた栖吉川の改修工事に目を向けた。川を管理する地域振興局の方に工事の内容を聞くと、かつては生き物の棲み家のことを考えずに工事を行ってきたことを教えてもらった。近年の工事については、環境保全の視点を取り入れた工事を行っていることも教えてもらった。子供たちは、生き物の棲み家を残すように工事を継続してほしい、栖吉川の生き物を大切にしたいと思いを強くした。

(2) 防災に係わる活動「地震災害から命を守る」(5年生)

新潟県では、中越地震、中越沖地震と大きな地震災害が起きた。子供たちは2つの地震災害を経験してはいないが、怖いものであるということは感じている。中越地震についての映像資料を見た子供たちは、中越地震の様子やなぜ地震が起きるのかということ詳しく知りたいという思いをもった。そこで、中越地震についての見学をしたり、保護者や職員からの体験談を聞いたりした。

また、地震が起きるメカニズムについては、大学の先生から話を聞き、「自分たちの住む地域にも断層があり、いつ大きな地震が起きてもおかしくないので備えなくてはいけない。」と感想をもった。

そして、子供たちは何を備えていけばよいのか話し合う中で、心の準備の必要性に気付いた。そこで、自分の生活に合わせて「地震が起きた時どのように行動するか考える問題」を作成する場を設定した。これは、矢守克也氏らが開発した災害対応カードゲーム教材「クロスロード」を参考にしたものである。「クロスロード」とは「分かれ道」を示す。地震が起きた時、どのような行動をとるかYES、NOで選択肢をつくり、なぜその選択肢を選んだのか話し合うものである。子供たちは、問題作成を通して、仲間とかかわりながら地震災害の状況を判断して、状況に合わせた行動をとらなければならないことを捉えていった。このように、様々な立場の人とかかわることで、日頃から地震災害を意識して生活しようとする意欲を高めた子供たちであった。

<参考文献> 吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉(2009)「クロスロード・ネクスト 続:ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション」ナカニシヤ出版

(3) 国際理解にかかわる活動「外国の人々と共に生きる」(5年生)

当校は、北京師範大学南奥実験学校と交流協定を結んでいる。6月に来日した南奥実験学校の子供や職員と交流を行った。当校の子供たちは交流に向けて、地域に住む中国出身の方や国際交流センターで仕事をされている中国出身の方と交流し、異文化に対する理解を深めていった。交流場面では、日本の文化について調べたことを基にして工夫しながら伝えようとしていた。また、子供の中には、訪日団で日本を訪れた子供と親しくなり、自分から進んで話しかける姿も見られた。また、後日、南奥実験学校の子供たちからの質問に答えるため、日本の文化や習慣について、インターネット回線を使って交流を実施した。表記や身振り手振りを使って真剣に伝え、言葉は通じなくても互いに笑顔になれたり、相手を分かろうとする気持ちの大切さを感じたりできることを実感した子供たちであった。



(1) ①の写真 (栖吉川の生き物調査)



(1) ②の写真 (地域の方との花植え)



(2) の写真 (地震が起きた時の行動についての話し合い)



(3) の写真 (インターネットを活用した交流)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(教育課程に位置付けた領域「いのち」(生活科・総合的な学習のを含む分野))	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 対応

「自然」「暮らし」「平和」の三つのテーマを取り上げ、「生命」やその基盤となる「安全」についての認識を新たにしていく領域「いのち」を設置している（文部科学省の研究開発学校として教育課程の特例措置を受けている）。「いのち」は全学年が実施し、自分と身の回りの多様な生命とのつながりの中で、問題の解決に向けて、対立や価値葛藤が生じるような課題を設定する。その中で、人と人、人と自然との間にある対立や調和の重要性に気付かせていく。活動の過程では、「出会う／気付く」「調べる」「考える」「行動する／評価する」の4つの過程を大切に、探究的な学習活動になるように努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

「いのち」を中心とした教科・領域横断型のカリキュラムの開発に当たり、現行の教育課程における、「生命」とその基盤となる「安全」に関する教育活動の現状把握と問題点を分析する。そして、「生命」とその基盤となる「安全」に関わる資質や能力の検討、単元と評価方法の検討、子供が自らの学びを実社会の「生命」とその基盤となる「安全」を築く取組に位置付けることができるカリキュラムの検討等を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

年間2回の保護者・児童対象のアンケートの中に、ESDに関わる学習活動についての項目を入れ、量的評価を行っている。具体的には、「身の回りには様々な命があり、安全に生活するために大切なことがあることが分かる」という項目である。この結果を教職員で分析し、次年度の活動に生かしている。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

当校で実施する研究会等で実践の紹介を行うことで、県内外の学校に活動の成果の発信に努めている。また、当校のブログやホームページでも紹介している。

そして、地域の方や地域振興局の方など活動に関わった方を招いて成果を発表し、その内容について評価をしていただいている。また、発信の場面に人を招くことにより、地域や関係機関とのネットワーク形成にもつながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

今年度は、大学の災害復興科学研究所に所属されている先生を講師として招いた。講師の先生は、「小学生を相手に話をするのが初めての機会であり、ぜひ今後もこのような機会をいただけるとありがたい。」と話した。当校は教育学部附属であるが、他学部の先生とのネットワークも広がってきている。また、栖吉川における活動については、継続的に大学の先生や地域振興局と連携しており、ネットワークが形成されている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

隣接する附属幼稚園、附属長岡中学校はユネスコスクールに認定されている。当校を含めて3つの校園が連携しながら幼小中一貫カリキュラムを展開している。その中で、幼児・児童・生徒と一緒に活動するだけではなく、互いに学んだことを発表し合ったり交流し合ったりしている。また、教職員間でも活動の内容を共有したり系統性を話し合ったりしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

身近な栖吉川で生き物調査など環境に関わる活動を継続的に取り組んでいるため、生き物を大切にしようとする子供が増えている。減災・防災に関する活動を行うことで、自分の身の安全を考えたり以前よりも自然災害に関心が高まった子供が増えている。教員自身も教材や単元を開発したり、工夫したりして活動の分野を広げている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

今年度の年間活動計画を基に、新たな単元を開発していく。

小6 (93)	いのちってなに? (10)	人とつながる小さないのち (43)	今を生きる わたしの「いのち」 (40)
小5 (95)	外国の人々と共に生きる (25)	命をいただくわたしたち (26)	防災について学ぼう (28) わたしたち暮らしと雪 (16)
小4 (95)	稲吉川の今・昔・未来 (45)		誰もが暮らしやすい社会に (17) 平和を願った長岡の先人たち (19) これまでの10歳 これからの10歳 (14)
小3 (95)	昆虫・植物Ⅰ 花いっぱいプロジェクト 長岡野菜の栽培 (35)		わたしたちの町 長岡Ⅱ (25)
小2 (126)	学校探検をしよう (10)	夏野菜を育てよう (17) 稲吉川と仲よし (18) 発見!安全たんけんたい (12)	白雪小かぶを育てよう (28) 昔遊びたんけんたい (20) 冬のあそび (21)
小1 (123)	学校と仲よし (12)	大きくなれ野菜さん (15) 学校安全隊 (10) 生き物発見 大好き稲吉川 (35)	ひらりつながるみんなの生活 (7) 幼稚園の仲間と仲よし (16) 新一年生の仲間と仲よし (16) わかさぎのみんなと仲よし (12)

() は授業時数